



ちゅりっぷ通信

笑顔を咲かせよう♪



Vol.3 令和元年 7月号 2019

訪問介護看護いずみ / いずみ中央地域ケアプラザを訪ねて

緊急時のコールで365日24時間の対応。地域に「安心」を提供しています。

景山 へ訪問介護看護いずみへは、ヘルパーの派遣事業などは他の事業者さんと同じですが、より重度の方が多い事業所です。終末期の看取り、ご自宅での看取りなど、最期まで寄り添うということが多いですね。

あとはいま地域密着型サービスとして、定期巡回という事業をやっています。正式な名称は『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』というのですが、これは定期的にヘルパーが1日に何回か利用者のお宅を訪問するのに加えて、24時間対応する緊急のナースコールのようなコール端末（みまもりケータイ）をご自宅においてもらい、必要なときにコールしてもらおうと資格を持ったオペレーターが対応し、ヘルパーを派遣するというものです。お客様のかかりつけ医や訪問看護ステーションなどもそれぞれ違いますから、連絡を受けると、そうしたところとも連携をとって協働して対応することになります。

私たちの事務所では、定期巡回だけでいえば、お客様は15〜16件くらいでしょっか。亡くなる方もいらっしやるので、数は流動的です。この事業を始めて6年ですが、最初のころはなかなかお客様が増えなくて、この事業を知ってもらっ



景山なおさん

とがまず課題でした。いまは少しずつ認知もされてきているようですが、まだ十分とはいえません。

泉区の特徴として特養などの施設が多く、入所に順番待ちもあまりなく入れるケースが多いのです。すると、重症化するとすぐに入所できてしまう。でも、慣れ親しんだ家にいたいという希望をお持ちの方でもすぐに施設に行ってしまうとしたら残念なことですので、もつひとつの選択肢として定期巡回サービスをもっと知っていただきたいと思いますね。

住み慣れた環境で安心をプラスして生活できる。それが定期巡回サービスのよさ。

景山 まだまだ定期巡回の制度が知られていないといいましたが、施設に入所することに比べて、いいところがたくさんあります。まず住み慣れた生活環境にいて、いままでと変わらない暮らしができること。

また薬を飲み忘れる方もけっこういらっしゃるのですが、そついつ方に薬の飲み忘れがないかお尋ねしたり、安否の確認ができたりすることです。この安否確認については、ひとつの事例があります。インフルエンザが流行していた今年1月に、ご自身もインフルエンザで寝込まれて動けなくなった方がいて、急遽、1日3回ヘルパーを派遣して食事や排泄の介助など全般にかかわるようになりました。

大石 その方にはケアマネさんはかわっていたのですが、ヘルパーさんが入っていなかったのです。インフルエンザで寝込むようになり、いよいよ動けなくなりましたところで連絡が入り、私たちが入りま

した。その後、体調もよくなりましたのですが、しばらく寝たきりのような状態になってしまいました。

ご高齢なので一度寝込むとなかなか回復されないんですね。

その期間に、少しずつベッドから立ち上げたり、ヘルパー

がトイレへの誘導などを行い、最近ではトイレもひとりでできるよくなるまで回復されました。

景山 実際、行っているヘルパーさんもその変化ぶりに驚くほどで、回復できてよかった、すごいと喜んでいきます。

やりがいとお客様への責任。そのためのチームワークを維持することの大切さ。

景山 こつとして元氣になられたり、あるいはお亡くなりになる方もいらっしゃいますが、ご家族から皆さんがいなかったら、家では看られなかった、本当にありがたうございましたという言葉をかけられると、やはりやりがいというか、お客様への責任を改めて感じますね。

ご家族も、お家で最期を迎えさせてあげることができて、本当によかったという方がたくさんいらっしゃいます。



大石健治さん

病院で入院されていた方でも治療が終わるとすぐに地域なりご家庭に戻され、不安に感じておられるご家族とかも多いと思うんですけど、そこに私たちが来てヘルパーさんも毎日来てくれて、それだけでもたぶん安心できるのではないかと思います。大丈夫よって声をかけてくれる人が毎日来てくれるというのは非常に心強いことではないでしょうか。

その反面、お客様の信頼に応え、安心を提供し続けるためにも、チームワークを保っていくことがとても重要だと感じています。チームワークはすごくいいと思っていますけど、それを常に維持して、みんなが同じ方向を向いていないとケアも変わってくるんですよ。それぞれ力量が違ったりするなかで、みんなでフォローしあいながら仕事をするのがなにより大切だと思っています。

在宅でありながら病院の安心感。定期巡回サービスの魅力をもっと知ってほしい。

富田 彼女がいうようにチームワークをよい状態に維持していくことはやはり大変で、かつ大事なことです。チームワークが乱れるとサービスの質にも影響してきてしまつし、終末期のお客様をもつということは、情報の共有がとにかく必要なんです。なにか変わったことがあると、ケアが少し変わったりします。そついつ情報を風通しよく共有し連携できる関係でないと、なかなかうまくいきません。

〈訪問介護看護いすみ〉は、平成26年8月に開所し

たのでまだ5年ほどの若い事業所です。立ち上がったときは『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』と『夜間対応型訪問介護サービス』の二本だけでスタートしました。

入院していて、ある程度治療が終わると病院を出て行かざるを得なくなり行き場がなくなるという事例をよく聞きますが、そういう人たちがいま日本全国にたくさんいらっしゃいます。『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』というのは、その救済のためにできた制度で、包括ケアシステムのかなめの事業で、同時に、力を入れてもなかなか伸びにくい分野でもあります。そのなかでも訪問介護看護は、すみずみはがらびといると自負しています。

定期巡回というのは、ひとことで言うと在宅の境界点を上げるといふことです。ですから病院の機能と特養の機能を、そのまま在宅にもつなげるようなイメージでできあがったんです。病院ですと、ナースコールを鳴らすとすぐに看護師さんがやってきてくれますね。それと同じ発想が、私たちがお客様にお渡ししている「コール端末なんです。在宅でありながら安心できる病院のようなイメージですね。むしろ、この「コール端末の存在をもっとたくさんの方に知っていただきたいです。もっと定期巡回のよさを知っていただければと思います。



富田なぎささん

玄関までたどり着けなくて倒れていたとき、大石さんが駆けつけてくれました。

Aさん 今年の1月21日です。インフルエンザが流行しているときで、わたしもかかって倒れちゃったんです。玄関の方まで出て助けを呼ぼうとベッドから這って出たのですが、玄関の近くで動けなくなってしまう。

そういうときに、大石さんが来てくださって。内側から鍵をかけていて、私が動けないものですか、台所の小窓から入ってこられました。

大石 ケアマネさんと一緒に来たんですが、玄関は鍵がかかっている開けられなくて。それで鍵屋さんにも来てもらって、窓の鍵を開けてもらってそこから入ることができました。

Aさん 3ヶ月寝たきりになりましたけど、あれからずいぶん元気になりました。あのときはひどかったですねえ。わたし、いま89歳になりますが、ずいぶん元気になりました。いまはヘルパーさんに日に3回来ていただいて、食事もきちんとかれるようになりました。もう本当にお世話になっています。

大石 最初のころは起き上がることができず、ベッドで寝たきりの生活でしたが、今はトイレも一人でできるまでになりました。ご自身で動けることを励みとされています。ですが、転ぶ危険性がなくなっただけではないので、室内を移動される際には、ぜひ緊急コールを持っていただきたいと思います。

Aさん やはり歩かないとね。もう3ヶ月寝たきり

でしたし、じっとしていると足腰が弱るばかりです。少しでも身の回りなことなどやれることはやろうと思っています。でも、毎日ヘルパーさんが3回も来てくださるのでほんとうに助かっています。お借りしている緊急用の「コール端末も使ったことがあります。あれはありがたいですね。動けないとき、トイレも行かれないときに、あれで助けに来ていただけるのでほんとうにありがたいです。24時間いつもつながりますからね。安心です。



Aさん宅を訪れた大石さん

ひきこもりがちな男性を地域デビューさせる「ducks」を作った生活支援コーディネーター。

生活支援コーディネーターというのは新しい職種で、もともこの地域包括ケアシステムを推し進めるうえで、高齢者の方々が地域の中で生きていくために必要な資源をつくっていく。そういう取り組みをサポートすることを目的として制度化された職種です。地域で支え合う仕組みづくりのサポートをするという感じです。

もう少し具体的にいえば、高齢者の生活支援、そして見守りつながり、さらに交流・居場所づくりの3つをつなげて、循環をつくっていくような、そんなイメージです。

最初はまず地域をよく知るために、高齢者の食事会や健康体操教室などをやられているところにお邪魔して様子を見せてもらっていたのですが、続けているうちに、どこでも男性の参加が少ないということに気づきました。20人くらいの参加者がいるとしたらそのうち男性は3、4人という印象なんです。

たとえば地域の食事会というのは、おいしくご飯をたべて、おしゃべりをして、自由な時間が多いのですが、男性はそれが苦手な傾向にあります。おしゃべりにしても、なにかひとつのテーマを決めないと気軽にしゃべれないところがある。

そこで、あえて男性に特化した講座を開いて、網戸の張り替え方やコーヒーの淹れ方といったテーマでやっていたのですが、それをさらに発展させて一緒にやりませんかと呼びかけたところ、7名の男性が応じてくださり、それでducks(ダックス)という男性の活動グループを作ることになったのです。みんなで集まって元気に騒ぐアヒル

のイメージですかね。楽しくないと長続きしないので、男性が好きな社会見学や認知症予防といったことをテーマにして羽田空港の工場見学やフレイル予防のセミナーなどの取り組みを重ねてきました。いまでは18名くらいのメンバーがいます。

1回きりのイベントで人をいっぱい集めることにも、それはそれで意味があると思いますが、私としては、継続してできる仕組みをこれからも考えていきたいですね。逆に言うと、いまうまくいっているから素晴らしいと思うのではなく、ずっと継続させていく努力をしていかなければならないと思っています。



いずみ中央地域ケアプラザ
生活支援コーディネーター 加藤達也さん

訪問介護看護いずみは相鉄線いずみ中央駅より徒歩2分。

所在地：横浜市泉区和泉中央南4-1-13 武藤ビル2階

☎045-2886-0016

いずみ中央地域ケアプラザは相鉄線いずみ中央駅より徒歩5分。

所在地：横浜市泉区和泉中央北5-1-4-1

☎045-1805-1700(代表)

☎045-1805-11792(福祉に関する相談専用)

☎045-1805-11784(デイサービス直通)

それぞれお気軽にお問い合わせください。

介護者のための相談電話

介護に疲れたとき…ほっとライン

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか？

☎045-227-1718

「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見やご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

☎0120-701-782 FAX 045-227-1721

※受け付けは年末年始および祝日を除く月曜～金曜の8:45～12:00 / 13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切に共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階

☎045-227-1700 FAX 045-227-1701

ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用